会長挨拶

第３回国大化学会総会を終えて

国大化学会会長　米屋　勝利（昭和 37 年電化卒）

私が会長に就任して半年が経過しました．その間，7 月 25 日（土）に同窓会最大の行事である第３回国大化学会総会を横浜崎陽軒本店で開催しましたが，お陰をもちまして多くの会員やご来賓の出席をいただき，充実した総会・懇親会とすることができました．新会長として関係各位のご支援とご協力に厚く御礼を申し上げます．今回の総会では，横浜国立大学副学長國分泰雄先生から「大学の教育・研究の現況と今後の方針」と題するご講演を賜り，懇親会では工学研究院長石原修先生，横浜工業会理事長井上誠一先生から挨拶をいただきました．いずれも，非常に示唆に富んだすばらしい話であったと思っております．このことは，そのあとの懇親会で乾杯の発声をいただいた萩原忠臣先輩の挨拶にも現れておりました．中でも，國分，石原両先生が「名教自然」について熱意をもって語られたことは私としても大変印象に残っております．この話題を久しぶりに現役の先生から聞いたような気がします．出席された皆さんにもそれぞれに感想はあると思います．是非，一般の話題も含めて会員の声を会誌やホームページに反映していただければありがたいと思っております．もう一つ，今回の総会では学生会員の皆さんが熱心にサポートしてくれました．このことも皆さんにお伝えし，学生諸君に改めてお礼を申し上げたいと思います．

さて，私は総会の挨拶でもお話ししたように平成 21，22 年度の２年間を任期として会長をお引き受けしました．この２年間は樋口前会長の後を受けて提示された基本方針を実行することを役目としますが，その中で，①会員間のネットワークの構築，②学生支援，の２点を最重点課題に設定しました．総会当日の私の挨拶は直接的には出席者の方々にしか伝わっておりませんので，ここに改めて内容をご紹介し会誌での会長の挨拶とさせていただきます．

―挨　　拶―

◆　今年４月１日から，樋口修一郎会長の後任として国大化学会の会長をお引き受けすることになりました電化昭和 37 年卒業の米屋勝利です．ご承知のことと思いますが，国大化学会は 2007 年４月付で３つの化学系同窓会が統合して会員約 7,000 人を擁する大きな同窓会として発足しました．

◆　過去２年間は，初代会長樋口氏のリーダーシップのもと，組織体制固め，同窓会会則の整備，活動方針の決定，具体的な活動計画の策定と実行，重要課題の抽出と審議などを経て順調に立ち上がってきました．私の任期の２年間（平成 21 年～22 年）もまだ創成期間であることには変わりありません．そのため，樋口前会長が示された基本方針と活動内容を継承し発展させることが私の務めであり，新組織が発足して最初の数年間は活動方針と組織体制を固め，会員の意向を活動に反映させるための仕組みを構築することが重要であると考えております．

◆　国大化学会はその活動を実行するために，会長の下，３名の副会長，企画 G，会費納入促進 G，会誌・名簿 G，総会・懇親会 G，ホームページ G，庶務・会計 G，教育研究支援基金運用 G の７つのグループと２名の監査役からなる役員組織で運営しております．各グループとリーダ名を以下に紹介しておきます．なお，国大化学会では教職員の方々も新たに正会員として同窓会に参加しておられますし，学生にも役員として入ってもらっています．

企画 G ……松本　正和（応化・S45）
会費納入促進 G …本間　昭弘（応化・S44/2）

会誌・名簿G ……鈴木恵一朗（電化・S45）
総会・懇親会G ……渡辺　　博（電化・S38）
ホームページG ……横山　幸男（電化・S49）
庶務・会計G ……堀　　雅宏（電化・S43）
教育研究支援基金運用G……
……榊原　和久（応化・S50）

◆　これからの任期2年間は，予定した課題の解決に務めますが，それを実現するために，当面2つの目標を設定しました．

第1の目標は「**国大化学会メンバー間の会員相互の交流とネットワークの構築**」です．具体的には，同窓会誌，ホームページ，名簿等の情報を着実に会員の皆様に届け，或いは同窓会への意見，近況の報告等をいただくための道筋を作ることですが，このことは世代の異なる卒業生の方々に確実に情報が伝わっていく仕組みを作り上げていくことです．これまで，応化会，電化会ではクラス幹事を介して本部と会員或いは会員間の交流が行われてきましたが，平成時代の卒業生に対しては研究室の縦のつながりはあるものの，卒業同期の横のつながりは皆無に近い状態です．現在，このような現実を踏まえてどうするかを思考しているところです．

第2の目標は「**大学・学生支援**」です．特に，現役の学生諸君に対して同窓会として何がお役に立てるのかを考え一つ一つ実行していきたいと思っています．これまでも，OBの方々を講師に招いて「OBと語る会」という講義を実施し好評を得ておりますが，その他にも先生方や現役学生諸君の希望を聞きながら具体化し，実行に移しているところです．

◆　おわりになりましたが，今年度の国大化学会関連の重要行事を紹介しておきます．

- 国大化学会総会・懇親会：7月25日（土）横浜崎陽軒
- ホームカミングデー(HCD)：11月8日（日）横浜国立大学創立60周年記念行事と同日開催
- OBと語る会：物質工学科化学系学部・大学院生対象　春秋2回開講
- 大学・学生支援（研究，学会参加活動費他）：物質工学科化学系と相談中

◆　以上，平成21年度国大化学会総会の開会に当たり一言ご挨拶を申し上げます．

横浜国立大学創立60周年記念募金事業のご案内

今年は，横浜国立大学が新制大学として昭和24年5月31日に発足してから60周年（開学135周年）を迎えます．これを記念して数々の事業や行事が予定されております．その一つとして「国際交流事業の促進とキャンパスの整備」を目的とした募金活動が行われます．下記に概要を示しておきますが，詳しくは大学からのお知らせとパンフレット（募金事業のご案内）をご覧ください．よろしくご支援ご協力の程お願い致します．

— 記 —

1.　募金の目的と事業展開：◆国際交流事業（国際交流基金の充実）
・学生の海外留学への支援
・外国人留学生への支援　等
◆キャンパス環境整備事業
・正面から工学部へ続くキャンパス主要路の美化整備
・正門につながる横浜国大橋とその周辺エリアの環境を意図した整備・再構築

2.　募金の案内　目標募金金額　1億5000万円
募金期間　平成21年10月1日～平成24年3月31日
受入口数　1口5,000円～

（米屋勝利記）

副会長挨拶

国大化学会副会長　高橋　昭雄（物質工学科化学系主任）

横浜国立大学に赴任してこの 11 月で 3 年になります．化学系主任を引き受けることとなり，規定により国大化学会の副会長を任ぜられました．私のことをご存知ない皆様が多いかと思いますので自己紹介から始めます．日立製作所で三十余年任務した後，本大学にお世話になることになりました．会社では，そのほとんどが研究所勤務でハイエンドサーバーいわゆる大型計算機用ハードウエアの研究に従事し，特に，高分子を主とした材料開発による伝送速度の向上に取り組んできました．私が入社した当初は，日立製作所が大型計算機を自社開発，主力製品として育成するタイミングであったため半導体素子である LSI はもとよりそれを実装する多層プリント配線板も材料から研究し開発してきました．伝送速度の鍵を握る絶縁層にエポキシ樹脂が検討され，本大学の名誉教授であります垣内弘先生編著の本「エポキシ樹脂」を手引に研究したことが大きな思い出となっております．その後も，電子機器へ応用するために熱硬化性樹脂をベースにした材料を開発してきたため，友井先生，飯島先生の研究を大いに勉強させていただきました．

横浜国立大学がある周辺には，東芝，富士通，NEC，ソニーと同業他社が多数あり，活躍されている著名な方々の多くが本大学出身であり化学出身者も多いことに驚かされました．その OB の方々が横浜高度実装コンソーシアム (YJC) で活躍されています．また，本大学で勤務してから知ったことですが，旭化成，住友ベークライト，JSR，三菱化学他の多くの化学会社で，先輩達が大活躍されています．横浜国立大学は，外から眺める期間が長かったので，本大学への就任前後の印象を述べておりますが，鈴木達治先生が残された名教自然を精神とする伝統のある教育を受けられた優秀な人材が沢山輩出されていると実感しております．大学に赴任して学部，大学院の学生達と接する貴重な経験をしておりますが，研究室では学部 4 年で配属され，博士課程前期で卒業される学生が多く 3 年の短い期間ですが，目を見張るような成長の速さに感銘を覚えると共に重責を感じています．一般に，国大化学の学生は，優秀で，真面目で，素直であり，所謂，ジェントルマンであるが少しおとなしいかなとの印象です．

国大化学会の意義と活動についての学生達の認識は，まだ十分とは言えませんが，樋口修一郎前会長を始め多くの先輩達のご努力により浸透しつつあることを感じております．例えば，学生会員からも役員を出すことにより国大化学会への現役学生間の参加意識が深まりました．7 月 25 日に横浜崎陽軒で開催された総会には多数の学生会員が出席して，国大 OB の会員達との交流を楽しみました．また，私を含む国大卒業生でない教職員も正会員になり，副会長や執行役員にも就くことにより国大化学会への関心がさらに深まり，大学との交流がより円滑になっていると感じております．国大化学会は，米屋勝利新会長のもと 3 年目である第 2 期を向かえて，樋口前会長が示された基本方針と活動内容を継承し，さらに新たな発展へと繋げる段階にあります．会長の下に，企画 G，会費納入促進 G，会誌・名簿 G，総会・懇親会 G，ホームページ G，庶務・会計 G，教育研究支援基金運用 G からなる 7 つのグループを設置して活動を実行しております．各グループを纏められているリーダーの方々が高い熱意を持って計画を実行に移している段階です．教育研究支援面では，学会への参加登録費用の助成を既に実施しておりますが，さらに，米屋会長の提案により学内での 2 年生，3 年生の化学コース歓迎会費用を国大化学会が全額負担して，大学側と共催で実施するこ

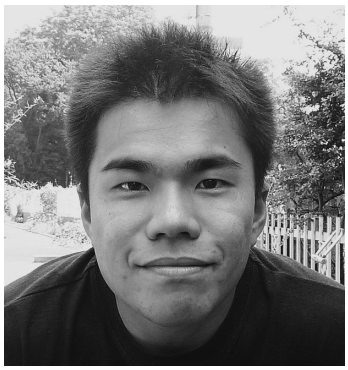
とになりました．教育研究支援基金については，皆様からご要望が有りましたら，検討いたしたく，ご提案をいただければと思っております．

私の役割は，国大化学会の活動について現役学生達の理解を深め，会員になると共にその自覚を持ち活動を促進することであると認識しております．これまでの横のつながりに加え，国大化学会の縦のつながりを強化して，将来にわたって継続できる強いパイプができればと思います．就職活動そして社会に出てからも，親身になって相談でき，本音の情報を提供してもらえるのも同窓の強い絆があるからです．国大化学会の活動を通してこのような関係を築くための一助になれればと願っております．

学生役員挨拶

学生役員として

国大化学会学生役員　御園　直樹



今年度学生役員（総会・懇親会 G）を担当させていただくことになりました物質工学科 4 年の御園です．私は今までは OB・OG の方々とは関わることを極力避けてきたタイプの人間であったので，今回このような担当になることを關先生から薦められた時には，かなりの戸惑いと抵抗を感じました．しかし，このような機会は滅多に巡り合ってくるものではないと考え，担当を引き受けることにしました．引き受けたからには中途半端に終わらせないよう，今後同窓会には深く関わっていき，同窓会の発展に寄与していきたいと考えています．

そして初めて学生役員として活動を行った 7 月開催の国大化学会総会・懇親会では，総会・懇親会グループの一員として準備から当日の運営に携わらせていただき，学生役員の楽しさを実感することができました．私は大学では大学祭の実行委員会に所属しており，このような催し物の企画運営には大変興味があったので，最初は戸惑いがあった学生役員の仕事も今では引き受けて良かったと満足しています．

しかし，今回の総会・懇親会に出席した人数が 100 人ほどであり，その半数が役員もしくは学生という事実には大変ショックを受けました．これは私の想像をはるかに超えた同窓会への関心の低さでした．やはり同窓会は一部の人だけが関わることではなく，卒業生全員で築き上げていくのが本来の姿であると思うので，現時点での国大化学会の課題はまず同窓会への関心を高めることが最優先であると思います．そのために，同窓生との接点の 1 つでもあるこの会誌を通じて国大化学会の魅力を伝えるような内容のものを，役員をはじめ同窓会員の皆さんと創り上げていきたいと考えています．

最後に，私が思い描く国大化学会の将来についてですが，2 年前の横浜応化会，横浜電化会，横国化学会の統合に満足するのではなく，工学部全体さらには横浜国立大学全学で同窓会を形成してお互いが密に連携を取り合い，横浜国立大学の更なる発展を目指していくような組織にしていきたいと考えています．そのためにも，まずはこの国大化学会を発展させ，卒業生からの関心高き同窓会になるよう全力を尽くしていきたいと思います．

学生役員挨拶

国大化学会学生役員　関　知也

横山幸男先生に指名され，2009 年度学生役員を務めることになりました関です．実は私が国大化学会（化学系学生の同窓会）の存在を知ったのは横山先生が「学生役員を選ぶ」と言いはじめられた 2009 年冬で，それ以前のことにつきましては，耳にしたことはあるのかもしれないのですけれど，まったく記憶にありません．そんな，少なくとも私の中では影の薄い同窓会ですから，私は同窓会には興味を抱きませんでしたが，ここで 1 年間役員になったとしても，大きな活動もないままに終わるのだろうと考え，また実際に横山先生から「年に 2〜3 回集まって食事をし，OB の人たちと話をする」という学生役員のだいたいの活動内容を聞いていましたから，引き受けることに決めたのです．

1 回目の集まりでの引き継ぎを経て，私は正式に学生役員となり，その日に国大化学会の 2009 年度の活動の方針などを聞いたのですけれど，正直なところ，わからないワーズが多く，また，過去の話などにつきましても，私は蚊帳の外ですから，それらが私の頭上を飛び交っているという印象が強かったように思われました．そういうわけで，もちろんこれだけが原因ではないのですけれど，少し話の輪に入りづらかったのを覚えています．ですが，確かによくわからない単語は多数ありましたものの，国大化学会が，学生の知名度の低さに反し活動的な団体らしいということにつきましては，よく伝わってきました．学会に出る学生に対して支援金を出すといったこともしているようで，集められた同窓会費は，ちゃんと学生に還元されるようになっているようです．

私は国大化学会が不必要なものだと考えていました．といいますのは，卒業後に同級生に会いたいと思うとき，その対象は多くの場合友人でしょうし，友人ならば同窓会を介さずに連絡を取ることができるからです．ですが 2008 年度学生役員の方の「30 歳を過ぎたら同窓会に行きたくなるらしい」という言葉を聞き，考えを少し改めることにしました．言うまでもないことなのですけれど，私は 30 歳ではありませんから，10 年後の自分がどのように思うのかなど，わかるはずもありません．20 年後，30 年後につきましても同様です．何十年かのちにも，やはり不要だと考えるのかもしれません．しかし，もし仮に 10 年後に私やほかの誰かが同窓会の集まりに参加したいと思ったときに同窓会が活動休止状態でしたら，その人は大変困ると思うのです．ですから私は，10 年後の人々の選択肢を増やす意味でも，国大化学会の繁栄に手を貸す必要があるのだと考えることにしたのです．